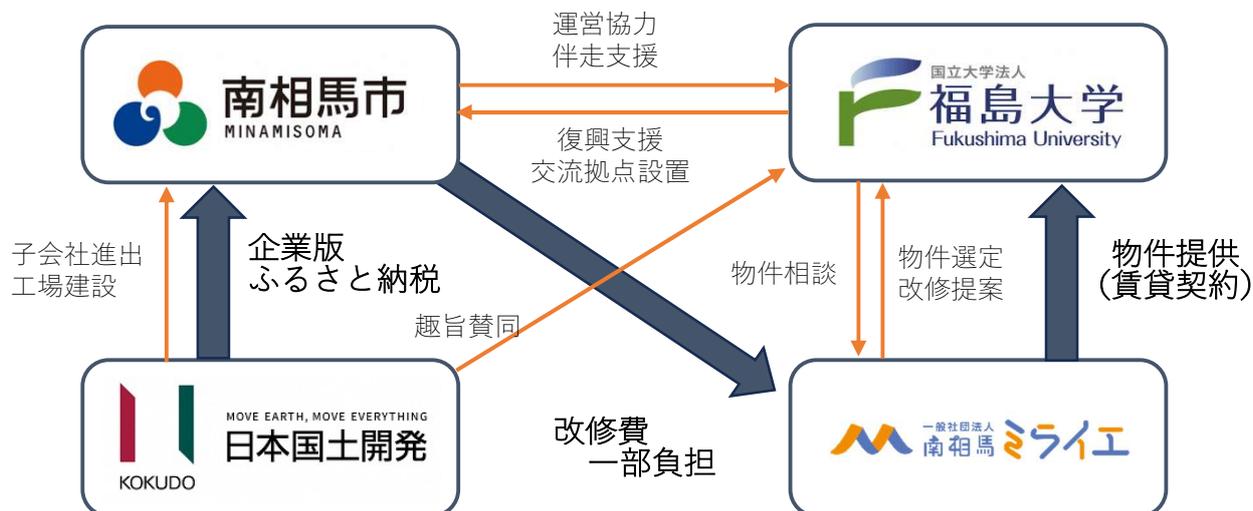


2026年3月17日

(仮称)福島大学サテライト拠点の設置に向けて連携協力協定を締結

国立大学法人福島大学と南相馬市、一般社団法人南相馬ミライエ、日本国土開発株式会社は、南相馬市小高区に「(仮称)福島大学サテライト拠点」を設置することを目的として、連携協力協定を本年3月11日に締結しました。本協定は、教育や人材育成、地域課題の解決、さらには地域コミュニティの再生と活性化を図るために、それぞれの強みを生かしながら協働体制を築くもので、2026年度内の拠点開所を目指します。



協定締結に至った背景として、福島大学は南相馬市と相互友好協力協定を2006年に締結し、学生のフィールドワークや地域交流活動を通じて継続的に地域社会へ貢献してきた実績があります。また、東日本大震災の発災後には、南相馬市を含む浜通り地域において、人材育成基盤構築事業など多様な復興支援活動を展開してきました。

南相馬市は地域再生計画である「南相馬市100年のまちづくり応援事業」に基づき、教育や学びの復興を地域再生の柱として位置づけています。

南相馬ミライエは、震災後の深刻な空き家問題に対応するために設立され、空き家の物件調査、所有者との調整、改修案の作成など、地域住環境の改善に向けて実務面を担ってきました。今回のサテライト拠点についても、小高区内の物件の選定や改修計画の立案を担当します。

一方、日本国土開発は、震災後より除染事業や河川堤防整備、防災公園整備など復旧・復興工事を実施し、南相馬市と強固な関係を築いてきました。さらに、日本国土開発は2016年に市内小高区へ福島エコクリート株式会社を設立したほか、2025年にはインフラリニューアル素材の製造工場「ANION南相馬工場」を建設するなど、地域産業や雇用創出に寄与しています。

このように、それぞれの立場から地域未来の創造に向けた想いを共有したことで協定締結が実現しました。

「(仮称)福島大学サテライト拠点」は、学生や教員が地域に根ざした学習や研究活動を行う拠点となり、地域住民との多世代交流の場としても期待されています。また、地域のリアルな課題を教育・研究に取り込むことで、人材育成と地域活性化を同時に進める先進的なモデルを目指します。

日本国土開発は、拠点設置のための改修費用の一部として、企業版ふるさと納税制度(地方創生応援税制)を活用し、南相馬市へ寄附を行います。今回の寄附は拠点整備に充てられ、地域再生に直接貢献する形となります。

今後、物件の改修や設備整備を進め、2026年度内に「(仮称)福島大学サテライト拠点」の開所を目指します。



調印式の模様。画像左から荒明健・南相馬ミライエ代表理事、林伊佐雄・日本国土開発代表取締役社長、鈴木典夫・福島大学地域未来デザインセンター長、門馬和夫・南相馬市長

以上

この件に関するお問い合わせ先

日本国土開発株式会社 サステナビリティ経営本部戦略部 電話: 050-1735-9468 FAX: 03-5422-1363